

平成26年度 天津小湊野外実習報告

本校の設定科目「サイエンスラボ」の一環として行っている、理数科1年天津小湊野外実習について報告する。今年度は、10月2日（木）～4日（土）に実施、引率は千馬、相馬、岩田、蛭間、皆川の5名。今年度は、海外派遣でお世話になっている来日中のブルース、マイケル両先生、案内役の本校教頭弘海と高田の途中参加もあった。

1日目

朝8:45、船橋駅集合、JRで安房小湊へ。クラス単独の校外学習が多い理数科でも、初めての宿泊行事のため、生徒の期待の大きさが感じられた。南下するにつれ、植生の変化を感じとれた生徒も多かったようである。初めて海が見えた時は、小さな歓声があがった。

安房小湊で、バスに乗り換え、内浦山県民の森へ移動。昼食後、施設の敷地内で樹木の種類を知るための実習を行ううち、ブルース先生一行が合流、生徒の何人かは、英語での会話ができ、貴重な体験となった。

次に、県民の森へ移動、班ごとに分かれて植生調査を行った。樹種と樹高を中心に調べるといやや簡略化した調査だが、身長6倍ほどの木の高さを「4m」と見積もるなど、全員初心者の生徒にとっては、意外とたいへんな作業だった。

今年も、県民の森の名物？のヒルが出たが、予防策を講じていたため、知らぬ間に血を吸われた生徒はいなかった。最初の「ヒルだ」という声に、どっと集まったのは、理系希望の生徒らしい光景だった。



夕食後は、名物の「葉っぱテスト」、事前に示した約20種類の樹木の葉から、10種類を出題、誰もが8種類以上の葉を識別できるようになるまで続けるというものである。

一発合格の生徒から、再々…試験の生徒までいたが、とにかく全員合格を果たした。

この日、樹木とヒル以外に、シュレーゲルアオガエルやモリアオガエルを発見したカエル好きの生徒がいたほか、カジカガエル、サワガニも見ることができた。

2日目

日中は、移動しながら、地学中心の実習を行った。今回、スマートフォンにクリノメーターのアプリを入れて来た生徒がいたのには、引率教員も驚いた。主な内容は、生痕化石を



含む堆積岩と地層、

枕状溶岩等の観察で、断層の実物、プレートの移動の実例を知ることができた。

合間に、房総で増え続けているキョンの死体、ハリセンボンの死体に群がるヒメスナホリムシを発見することができた。予想外の発見があるのも野外実習の良さである。



夕食後、休憩時間を利用し、希望者対象に夜の生物観察会を実施。理系希望といっても、様々で、中にはあまり得意でない生徒もいる。もっとも、このような機会を通して、将来の志望が固まっていくなかも知れない。

この後、植生調査のまとめを行ったが、野外でとったデータがなかなかまとまらず、野外調査の難しさを実感することとなった。

3日目



千葉大学の施設下の海岸へ行き、磯の生物観察を実施。潮位にはあまり恵まれなかったが、それでも、様々な甲殻類のほか、貝、ウニ、ヒトデ、イソギンチャク、カイメンなどを見ることができた。一旦採集した生物は、千葉大の施設をお借りして調べた後、海へかえた。

徒歩にて、安房小湊駅、JRで船橋駅へ移動した後、解散した。

3日間を通じて、机上と野外の違いを実感し、物に対して考えるなど、宿泊を伴う野外実習なら験を積むことができた。



自分で実
ではの経



実習はこれで終了ではなく、班ごとに課題を設けて研究、11月17日（月）、校内発表を行った。カエルや海岸のカニ、ヤドカリ、キョン、コケなど興味をもったものについてまとめ、ポスター状の用紙にまとめるというもので、まだまだ不慣れながら、生徒なりによく工夫し、良いポスターをつくることができた。

